

普天間かおり『奇跡のピアノ』コンサート

被災地復興祈念

2014.3.2[sun] 昼の部12:00～(開場11:30)
夜の部16:30～(開場16:00)

豊岡市民プラザ ほっとステージ

大人1,000円 小・中・高校生500円 チケット前売
(当日券は大人1,200円 小・中・高600円)



やびきあきこ(コーラス指導)



『奇跡のピアノ』と遠藤 洋(調律師)

東日本大震災から3年～津波に流されながらも、懸命な修復作業で再び命を吹き込まれたグランドピアノ。“復興の象徴”と呼ばれる『奇跡のピアノ』が兵庫県以西初、福島県いわき市から豊岡を訪れます。

主催:豊岡市、普天間かおり『奇跡のピアノ』コンサート実行委員会

後援:豊岡市教育委員会,

毎日放送、朝日新聞豊岡支局、産経新聞豊岡支局、FMジャングル76.4MHz

チケット販売:豊岡市民プラザ、ひぼこホール、豊岡市役所本庁・各支所、岡楽器店、田中音友堂、ビート楽器

お問い合わせ:豊岡市政政策調整課 Tel:0796(21)9022 e-mail:seisakuchousei@city.toyooka.jg.jp

一時保育あり
2月21(金)までに
申込みが必要です

~ Profile ~

普天間かおり

沖縄県出身。琉球王朝の流れに生まれる。

幼少の頃より歌い始め、小学生の頃には既に地元で音楽活動を開始。2002年、メジャーデビュー。その雄大にして繊細な歌唱力で、自身のルーツとなる沖縄音楽に独自の解釈を加え歌い継ぐスタイルや、平和、家族などに視点をおいて人を見つめる温かな楽曲の世界観が支持されている。

2011年3月11日、ラジオ福島での生放送中に東北地方太平洋沖地震に遭う。

その後、「Smile Again 0311」支援プロジェクトを立ち上げ、避難所でのライブやチャリティーコンサートの開催や収益の中から義援金へ寄付するなど精力的に支援活動始める。

また、子どもたちのもとへ自ら出向き、絵本の読み聞かせや歌を届ける「スマイル文庫」の活動では、音楽の枠を超え様々な分野の方々とつながりを持ちながら、その支援の輪を広げている。

兵庫県立コウノトリの郷公園内にある豊岡市立コウノトリ文化館では、普天間かおりの楽曲「守りたいもの」がコウノトリの巣立ちまでのハイライト映像とともに2010年から流れている。

やびきあきこ(コーラス指導)

但馬出身のシンガー。米国 Berklee College of Music にてジャズ、ゴスペルを学ぶ。

帰国後、Nandee<ナンディー>という愛称で東京を拠点に活動。自身のライブ活動の他、アーティスト(ラブサイケデリコ他)のサポートコーラスで日本武道館など様々なステージに立つ。

東京都主催「心の東京革命」のあいさつソング「あいさつは魔法の力」を歌っている。また、ゴスペルコーラスを指導するなどボーカル講師として活躍。

結婚&出産を機に地元で拠点を移す。現在二児の母。亡き友人に捧げた自作曲「My Angel」がMBSのニュース番組の特集で取り上げられ、各種新聞にも大きく掲載されるなど話題に。

2008年夏“～命への応援～「守りたいもの」野外ライブ”で普天間かおりと共演。

現在はウエディングシンガーとして活躍ほか、地元を中心にジャズライブを行っている。

『奇跡のピアノ』

福島県いわき市にある豊間中学校のピアノは、午前中の卒業式で演奏されたあと、東日本大震災で発生した津波にのみこまれた。

誰もが修理は不可能だろうと思った傷だらけのピアノであったが、地元の調律師・遠藤洋の懸命な作業により見事復活を果たす。

遠藤は、むせるような潮の匂いの中、細部まで入り込んだ砂などを丹念に水で洗い流し磨いていった。パーツ数は1万個にも及び、気の遠くなる作業に諦めかけたこともあったという。

ピアノの胴体に残る大きな擦り傷は、ありのままの姿を後世に伝えるためにあえて残したものである。

このピアノは2011年の紅白歌合戦で起用されて話題になり、その後も各地を回って被災地復興支援活動を続けている。

~ 同時開催 ~

市民プラザ ロビー

被災地支援物産展

東日本大震災の被災地復興支援の一つの形として、被災地の商品を販売する物産展を催します。

被災地域では、食品等の安全性を確保しながらも、風評被害により苦戦が続いています。

被災地域でがんばって営業されているお店を応援するため、少しでも商品を購入していただくことで支援となるよう、皆さまのご協力をお願いします。

無料上映(市民活動室C・D)

映画「生き抜く」南三陸町 人々の一年

2013年ニューヨーク・フェスティバルドキュメンタリー映画部門銀賞
上映10:00~、12:00~、14:00~、16:00~ 時間99分

娘を引き上げるため、いち早く海に出た漁師、最愛の妻を亡くし、幼子と再起を誓う夫、役場職員だった夫を探し続ける妻、仮設住宅の抽選をめぐり言い争う人たち... 800時間のテープが物語る、「命」を紡ぐ人々の素顔。前に進もうとする人、絶望の淵に立ち弱っていく人、じっと立ち止まったままの人... 南三陸町の被災1年の厳然たる現実を克明に描く。
[2012年/制作:MBS]